



▲冊子だけでは情報はなかなか行き届きません

## 子どもカルテの作成を

答弁＝プライバシーに関わり無理



緑生会代表

福原 隆泰

- 少子高齢化に対する施策と、町の発展を支える産業振興の具体的な施策は、
- ①子育て支援の対象になる世帯数は、
  - ②一元的な見守りのため「子ども一人ひとりのカルテ」を作成して、様々なサービスを効果的に活用できないか。
  - ③「ここがき大学」の事業内容と受講者数は、
  - ④高齢者や現役を引退する世代に対して、まちづくりに関わる受け皿は、
  - ⑤農地をどのように有効活用させるのか。
  - ⑥「ウチムラサキ貝」でこじ漁業振興を図るのか。

答弁＝清水町長

①概ね18歳までの子どもが293547世帯。

- ②各家庭のプライバシーにも踏み込むことになる。毎年300人前後の赤ちゃんと誕生する本町では物理的に無理がある。
- ③3学科ごとの講座・講演会と自主企画がある。1年生は68名、2年生は155名。
  - ④生涯学習ハンドブックを活用してほしい。
  - ⑤「ふぁーみんショップ」での販売、農協との連携など支援策を検討。
  - ⑥のりの色落ち現象抑制に効果がある。並型漁礁の設置など「豊かな海」の再生に取り組む。

（旧北小を夢のある施設に）

就学前の子どもを持つ親子から高齢者いたるまで、障がいの有無に関わらず、

- 夢のある施設を目指す。①敷地約1万7千㎡の取得金額は、
- ②利活用に関して、過去に投資した調査経費は、
  - ③教育審議会の「答申書」や公共施設有効利用促進検討事業業務報告書の提言をどう生かすのか。
  - ④旧北小学校を運営していた時の費用は、
  - ⑤施設建設に向け、議決された意見書の機関設置の状況は、
- 答弁＝清水町長  
既存の組織を活用して
- ①4億9千8百万円で購入。国から1億1千6百万円補助を受けている。
  - ②474万8千円。
  - ③公共施設有効利用促進検討委員会や播磨北小学校施設管理運営協議会へ参考として配布。
  - ④19年度予算では約2千7百万円を有効に活用している。
  - ⑤従来から運営協議会を既に立ち上げています。



▲複合交流センターの建設予定地（JR土山駅南）

## JR土山駅南整備の今後は

答弁＝国・県への協議調整が必要



藤原 秀策

複合交流センターの実設計の予算は、昨年9月定例会、今年1月、2月の臨時会において三度も否決され、このままではこの事業は前に進まない。今後どうするつもりなのか。

町長は施政方針で、住民と積極的に対話をする行政と述べているが、議会との対話も望みたい。

この事業についても議会との対話・議論が不足しており、なお一層の理解あるいは妥協・合意点を求める努力が必要かと思う。

答弁＝清水町長

町の玄関口であるJR土山駅南地区を現状のまま放置することは、町にとっても大きな損失です。また複合交流センターはこの南地区の基幹事業でもあり、全体整備計画に大きく影響を

及ぼし、国・県への協議や調整が必要です。妥協点を求める努力をすべきのことですが、住民の幸せにつながることであれば、当然そのようなこともあります。

「ミバスの運行は

「コミュニティバスの実証運行について、時期を含め現在決定していることの説明を求めます。」

答弁＝清水町長  
9月には運行を開始したい

「コミュニティバスの実証運行計画を策定し、その概要とルートは「JR土山駅から播磨町駅」を結び、バス停は17カ所、運行は毎日、土日・祝日が別ダイヤ。年末年始は連休も含め検討中。運行間隔は30分に1本を基本に、午前8時より午後8時、運賃は100円の予定です、

9月より実証運行を開始したいと考えている。

真の福祉施策は

高齢者が生涯学習、ボランティア、趣味などで生きがいを見つけて、元気に活躍されることを願っているが、町長の言われる真に必要なとされる福祉施策とは。

答弁＝清水町長  
地域活動の普及を

超高齢化社会に入った現在、健やかに地域活動を過ごすことが何より大切なことと考えている。

こうした目標を達成するためには気軽につどい、人との交流や適度な運動ができる場づくりとして進めている「いきいきサロン」の充実、サークルなどへの参加による趣味づくりを促進する。

また、長年培われてきた知識や技能を地域に還元する活動の普及などの具体的な方策の検討を進め、今後の高齢者支援事業の充実に努めたい。